

事例番号:360258

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 6 日

7:10 無痛分娩・分娩誘発目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 37 週 6 日

8:20- オキシトシン注射液による分娩誘発開始

9:40 陣痛開始

10:58 ムロイソリンテル挿入

17:02 経膣分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 6 日

(2) 出生時体重:3200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.29、BE -1.5mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 4 日 退院

生後 6 ヶ月 未頸定

生後 10 ヶ月 筋緊張低下、精神運動発達遅滞と診断

(7) 頭部画像所見:

1 歳 3 ヶ月 頭部 MRI で先天性の脳障害や低酸素・虚血を示唆する所見(大脳基底核・視床の明らかな信号異常)を認めない

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 4 名

看護スタッフ:助産師 4 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

**3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)**

**1) 妊娠経過**

(1) 外来における妊婦管理については一般的である。

(2) 妊娠 33 週 6 日から妊娠 37 週 0 日までの切迫早産のための入院中の管理は一般的である。

**2) 分娩経過**

(1) 妊娠 37 週 6 日に無痛分娩目的で入院としたこと、および入院時の対応(分娩監視装置装着、パルスオキシメトリ測定)は、いずれも一般的である。

(2) 分娩誘発について、文書を用いて説明し同意を得たことは一般的である。

(3) オキシトシン注射液投与中、分娩監視装置を連続装着したことは一般的である。

(4) オキシトシン注射液の投与方法(5%ブドウ糖 500mL にオキシトシン注射液 5 単位を溶解し 12mL/時間で投与開始、30 分以上経過後に 12mL/時間ずつ、120mL/時間まで増量)については一般的である。

(5) オキシトシン注射液投与中にオキシトシンを挿入したことは基準を満たしていない。

(6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

出生直後の対応、およびその後の新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

モニタリングと子宮収縮薬を併用する場合には、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2023」に即して実施することが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。